

ぶらりわが街宮沢界限

(38) 多摩川一治水と環境が調和した川づくり

多摩川は、ジョギング、ウォーキング、釣りなど身近で訪れる方も多いでしょう。その際に数年前から JR 八高線多摩川鉄橋～多摩大橋下流周辺が特に変わったと気付くでしょう。それは、国土交通省が河川環境事業を管理者(JR、東京都)と連携を図り、実施によるものです。

○ 洪水により水の流れる場所が固定しまったことで、川底の低下や河川敷の陸化が進み、特に八高線鉄橋周辺は川底が削られ、橋脚を保護している護床工の下流側は大きな落差ができ、沈下するなど、このまま放置すると橋脚の安定性が心配されていましたが、川底の土砂が流れていきづらくするための施設「帯工」の設置で平成26年(2014)対策済です。洪水で深く削られた川底を土砂や石で埋め、川を浅くし、さらに左岸(昭島市側)の堤防に流れが集中し、堤防への影響が心配され、このため右岸(八王子・日野市側)の河川敷を切り下げ、川幅を広げ、流れを中央に寄せ、洪水を安全に流すよう施工中です。



右岸側の河川敷の緑化が進み、ハリエンジュ(ニセアカシア)等の外来樹木群に覆われ、川らしい植生が減少していましたが、外来樹木を伐採(ばっさい)し、オギ等を主体とした本来の多摩川らしい草地を再生。かつての広い砂利の河原を目指して28年3月末対策済です。



川を浅くし、川幅を広げた対策により、施工前に見られた八高線多摩川鉄橋から下流の流れが幾つにも分かれ、その間を高さ1mほどの牛の背のような形が細長く延びて一見すると牛が泳いでいるように見え奇妙な形から名付けられた「牛群地形」が消えてしまいました。*⑧「多摩川一牛の群れ一牛群地形」に記載。

○ 多摩川での川遊びや釣りで流れに入ると、河床の不快感「ぬるぬる感」が特に多摩大橋下流周辺



で見られました。それは右岸の八王子水再生センター(処理区域多摩川の南側の八王子市・日野市・あきる野市等)の下水処理水が直接多摩川へ流入するため、窒素・リン等が多くなり「ぬるぬる感」が大きくなる原因でした。水質改善のため下水処理水の一部を整備した水路など(堀川～谷地川)に分流させることで河川の自浄作用＝「汚濁物質のろ過や沈殿・河床面の砂礫(されき)や藻に吸着され、河床に生息する微生物が汚濁物質をエサとして食べ、水と炭酸ガスに分解するなどの水質浄化機能の効果」により、河川水質、水生生物への影響が低減されるなど時間をかけて多摩川に流す取り組み、さらなる水質改善を行いました。



○ 多摩大橋新橋(中神町3-2先・全長460・08m)多摩大橋の交通量増大解消対策として、平成19年(2007)10月27日開通・構造形式7径間連続鋼箱折補鋼アーチ橋で平成19年度土木学会田中賞(作品部門)受賞。田中賞は日本の橋梁(きょうりょう)界の育ての親として、永代橋、清洲橋など数々の名橋を生み出した故田中豊博士の功績を偲(しの)んで発足。作品部門賞は橋梁、関連構造物の中から、計画、設計、施工、美観などの面において優れた特色を有するものと認められたものに表彰されています。アーチの基に受賞碑があります。